

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に対する研修会を開催し、共有を図っている。	法人の基本理念「愛と希望」をもとに基本運営方針を定め、理念に関する職員研修を実施するとともに、今年度は職員とともに年度目標を検討しました。玄関にも目標を掲示し職員各自が確認し、理念を実践できるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流として、地域主催の催し物に参加する事が出来た。	近隣の幼稚園の園児とは、ホームの畑でさつまいもの苗植えや収穫を手伝ってくれたり、歌を歌いに来てくれるなどの交流が行われています。また、大学生のボランティアの受け入れや大学の学園祭への参加、ご利用者の作品を地域の作品展に出展するなどして地域との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後の取り組みとして、機関紙を通して、地域に発信していきたいと計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の参加と共に外部から観た事業所の評価をいただき振り返る時を持っている。	2ヶ月に1度、包括支援センター職員、敬和学園副学長、民生委員、ご家族代表、ご利用者代表に参加してもらい、ご利用者の状況報告、ホームでの活動報告などを行い、意見交換をし、ホームの運営に繋げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員(介護相談員、包括支援センターなど)の意見を聞き、アドバイス等を受け協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の職員には運営推進会議にも参加いただいているほか、2ヶ月に1度は介護相談員の受入も行うなど連携をとりながら運営を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する事例とともに検証し、日々のケアに取り組んでいる。	玄関の施錠も夜間帯のみとするなど、身体拘束を行わない方針で運営しており、職員の理解を深める為の事例検討も行いました。状況によってやむ得なく身体拘束をする場合にもご家族に説明・同意を必ず行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアにおいて、ケアカンファレンス等で検討、検証し同時に学びの時としている。	職員会議でも職員の言葉遣いや態度に関して周知徹底を行い、虐待の防止についての職員の理解を深めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の担当者が中心となり実践しているが全体で共有する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に説明と、疑問点を訪ね以後も不明な部分においては、いつでも説明できるよう窓口を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等にご家族代表に出席していただいたり、サービス担当者会議にもできるだけご家族に参加して頂き意向の確認を行っている。	日常の面会時や電話でのご家族とのやりとりにて要望の確認をしているほか、ご家族代表には運営推進会議にも参加していただいています。また、ホームの行事にはご家族にも声を掛け、参加できるご家族には参加して頂いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を開催し、会議録をもって周知をはかり意見提案を反映させるよう努力している。	日常のやりとりや毎月のユニット会議で職員の意見や要望の確認を行っています。また、職員の状況に合わせた個別研修も行なうなど、職員の意見を確認できるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の努力から実績、勤務状況から人事考課を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会を開催しスタッフひとりひとりが担当をもちスキルアップにつなげられるよう機会を持つ努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加を通し、他・同業者との交流の場としての意義を持たせている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の面接の段階で不安や要望を確認し、ホームに持ち帰り、どの様な支援が必要かを話しあいを行い不安無く過ごせるように情報共有してから入所して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接の段階で家族方の要望を確認しホームでの生活の流れをお話している。またいつでも何でも相談、連絡して頂き要望や不安が話せる状況を作り安心して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居された時、その方を一番に見つめ、常に寄り添いどの様なサービスを提供してほしいのかをスタッフ間で情報共有し、サービス提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除を一緒に行ったり、食事の盛り付け、洗濯物たたみ、かたづけ等生活している気持ちを持って頂けるように支援している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況を連絡し、相談し、共に考えてご本人の支援を行えるようにしている。	年に2回事業所広報を作成しご家族に送付したり、担当者より毎月、日頃の活動の様子や状態をまとめたお手紙をお送りするなど、ご家族とも情報が共有できるよう努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散髪の際、ご本人の希望のなじみの床屋を利用したりと関係を続けている。	ご家族の協力も得て買い物支援や外食支援、行きつけの理美容室への利用支援なども行って頂いています。また、知人や親族の方に面会に来て頂いたり、担当職員と一緒に温泉への旅行やドライブにも出かける等、これまでの関係が継続できるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置などに気を配り、トラブルの無い様、ご利用者が孤立しないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議で本人の思いの情報を集めスタッフ間で検討し、ご本人の想いを優先して行っている。	日々のご利用者とのやりとりにて要望を確認し、その都度対応するように心がけています。また、6ヶ月に1度のサービス担当者会議にはご利用者、ご家族にも参加して頂き意向の把握に努めています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後に、生活を通してなじみの暮らし方や生活歴等情報を収集し、サービス提供に取り入れるようにしている。	入居の際にご利用者、ご家族等から確認した情報をもとに、これまでの生活の情報をフェイスシートにまとめています。また、6ヶ月に1度はフェイスシートの見直しも行い、日々の生活の中で得られた情報も追加しています。	調査時点で担当職員がフェイスシートの存在を知らなかったり、契約時から情報の更新がされていないフェイスシートもありましたので、定期的に確認の機会を設けられることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に明記している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い、生活の様子を家族の面会時にお伝えし、ご家族からの要望をお聞きし会議の中で情報共有し現状に合った介護計画を作成している。	ユニット会議にてご利用者の状態を確認し、モニタリングも毎月実施しています。また、サービス担当者会議も6ヶ月に1度行い、ご利用者、ご家族とともに介護計画の見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の実施をもとに実践できているかをモニタリングしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向やニーズに合わせてスタッフがサービスを提供できるように行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事を個別に行い、その方に合った地域との交流が行えるように努めている。又、ボランティアの受け入れも行い利用者様と交流できるように工夫をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族よりかかりつけ医を確認し、受診をしている。又、身体状況に不安があれば家族、医師に連絡し、指示を頂いている。	ご利用者・ご家族の希望に合わせた医療機関にて受診しています。基本的に受診支援はご家族にお願いしており、必要に応じてホームからも医師へ情報提供を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤時に情報伝達、共有し相談指示をもらい日々の支援に繋げている不在時は電話相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時様子を見に行き、病棟の看護師から情報を得、必要に応じて医療連携室にも相談、協力して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医療関係者と話し合いをもち今出来る事、今後必要になってくる事など話し合いを行っている。	管理者は医療行為が伴わなければ支援は行っていきたいと考え、ご家族にも契約の際に説明はしています。また、ご利用者の状態に合わせてご家族との検討の機会も持つなど、ホームで出来る支援は行って行きたいと考えています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習会を実施している。	外部から講師に来て頂き救急救命の研修を行ったり、職員会議でも緊急時の対応について検討する場を持つなど、職員が適切な初期対応ができるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いくつかの災害を想定し、年に2回避難訓練を実施しスタッフは役割を順にならしている。	年2回、日中・夜間の火災や地震を想定し避難訓練を実施しています。	災害時の地域との協力体制を確認するためにも、地域の方へ避難訓練への参加要請をされることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナー等の研修会を開催し、学びと共に日々のケアにこころがけている。	職員会議でも職員の言葉遣いや態度に関して周知徹底を行い、ご利用者の尊厳を大切にされたケアに努めています。また、契約時にはご利用者の写真の広報の掲載についても同意が得られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	研修会を開催し学びを通して、ご利用者の日常生活において自己決定がしやすいように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かい対応が出来るように、研修会を通して学び、ケアにこころがけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の個性を尊重し、自己決定を促しそれに応じた支援をこころがけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや調理の手伝いなどを行っている。	ご利用者の状態に応じて野菜の皮むきや食事の盛り付けなども手伝ってもらっています。ホームには畑もあり、ご利用者にも野菜の収穫を手伝ってもらっています。誕生日にはご利用者の嗜好を取り入れたメニューにしたり、お好み焼きパーティーを行ったり、干し柿作りもご利用者と一緒に行うなどし、食事を楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、水分量に関しては確保できていると、食事量も各利用者に合った量を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行う事の出来る利用者に対しては声かけを行っている。自分で行う事の出来ない利用者に対しては、口腔ケア用品等を使用して介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状態に合わせたパターンを把握し各々にあった介助を心がけている。	ホームに入居されて最初の2週間は排泄チェックを行いご利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせたトイレ誘導や声かけを行い、気持ちよく排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、適度な運動を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望の時間に合わせて気持ち良く入浴して頂けるよう心掛けている。	入浴はご利用者の希望に応じて支援しています。入浴を嫌がる方にもタイミングを見計らい声かけして、お風呂に入ってもらよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して、穏やかにねむれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用薬に関しては把握しており、最善の注意をはらい服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を歌ったり、カルタ取りや将棋などを行いそれぞれの好みに合った事を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援を少しずつ行っているが全員に行きとどいていないのが現状である。	ご利用者にホームでの生活をより楽しんでもらえるよう、季節に合わせてお花見やあやめ見学に出かけたり、担当者と一緒に月岡温泉へ出かけたり、自宅近くのパン屋さんに出かけるなどの支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて事業所で管理を行う場合があるが、ご本人様・ご家族様と相談の上、所持できる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いた場合、直ぐ渡して読んで頂くようにしている、電話も本人が希望される場合は掛ける事が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに於いて居心地良く生活して頂けるよう工夫を行っている。(席替えなど)	フロアにはソファやピアノが置かれていたり、畳のスペースもあり、ご利用者同士がテレビを見ながらゆったりと過ごせるようにされています。共有スペースからは、ホームの中庭もよく見え、畑の野菜や季節の草花を見渡すことができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の気持ち、感情を理解したうえで気持ち良く穏やかに過ごして頂けるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していたもの、以前暮らしていた部屋の配置などに近づけ居心地良く生活して頂けるようにしている。	ご利用者・ご家族とも相談し、タンス等の家具やご家族の写真など、使い慣れた物、好みの物を持参し、居心地良く過ごせるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々自立した生活ができるように工夫している。		